歩程 約2時間

6 絵になる風景がつづく 三浦歩道（家族向・一般向）

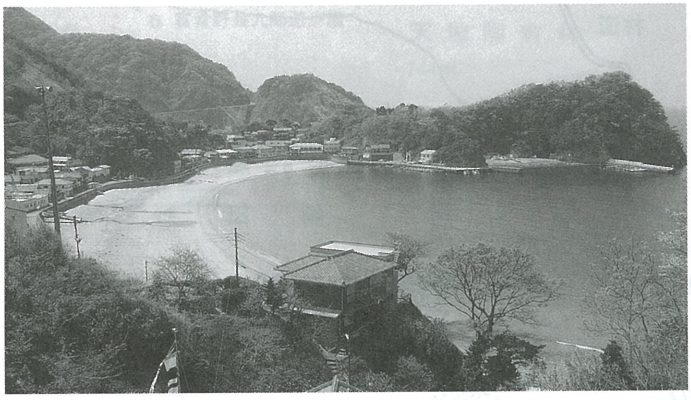
1965年に松崎―石部間にバスが開通する前は"伊豆の秘境"と呼ばれていた松崎町南部の岩地・石部・雲見の三地区を総称して地元の人は**三浦**と呼んでいる。バス道路ができる前に、地元の人達が利用していた生活道路に手を加えて作られたのが**三浦歩道**。岩地・石部・雲見を結ぶ延長4・6km、約2時間のハイキングコース。高通山コース約7kmと結んで歩くのもいい。

松崎から**雲見入谷行**のバスで、富士山と20体の彫刻が置かれた**富士見彫刻ライン**を通り10分、**一里塚**で下車する。

コースの起終点は、ここからアロエの段々畑を下った岩地海岸にある。正確に歩きたい人は、バスで一つ先の**岩地温泉**まで行き、海岸へ出てから段々畑を**一里塚**まで上るといい。登りつめた所には石仏が1体、やさしく迎えてくれる。

山側へ伸びた広い舗装道の脇に案内標（石部まで2・4km）があるので、これに従い細い段々畑を登っていく。冬にはアロエやマーガレットが咲く。振り返ると岩地海岸が一幅の絵のように美しい。

石段を上って広い道に出たら右へと下る。舗装された道が大きく右へカーブする手前から案内標にしたがい左へ上る。旅荘の脇を通り、畑の中の小さな四ツ角を右へ旅荘の裏手へと廻り込む。平坦で展望のない道を行くと間もなく**休憩舎**。かつては、ここからも展望がよかったが、樹林が繁り、今は全く展望がない。


▲岩地

小さな沢を渡る。椎茸の林を見て少し行った小さな峠に石仏が1体。宝暦五年（1755）と彫られているから、今から約250年前の江戸時代に彫られたものらしい。

岩地から1時間ほどで**石部**。いったん国道に出て山道川に沿って集落の中へと行く。澄んだ山道川には、たくさんの鯉が泳いでいる。

むかいばしを渡ると**伊志夫（石部）神社**。10月の最終土・日曜日に同神社の例祭が行われ、悪魔払いの神楽が奉納される。

神社からは少しきつい登り。ジグザグの急な上り道を15分で分岐点。雲見へ1・52km、石部へ0・76km、展望台へ0・2kmの案内標がある。桜の林をくぐって**黒崎展望所**へ出る。ここからは、眼下に岩地、石部の港が一望できる。

分岐点まで戻り三競展望台へと向う。山桜が多い。3月下旬から4月にかけて桜のトンネルができる。足もとにはツワブキやアシタバが多いので山菜採りにもいい。

15分ほどで**三競展望台**。正面に御前崎から三保、眼下に岩地の日和山、萩谷崎、遠く堂ヶ島から麗峰富士の姿がある。

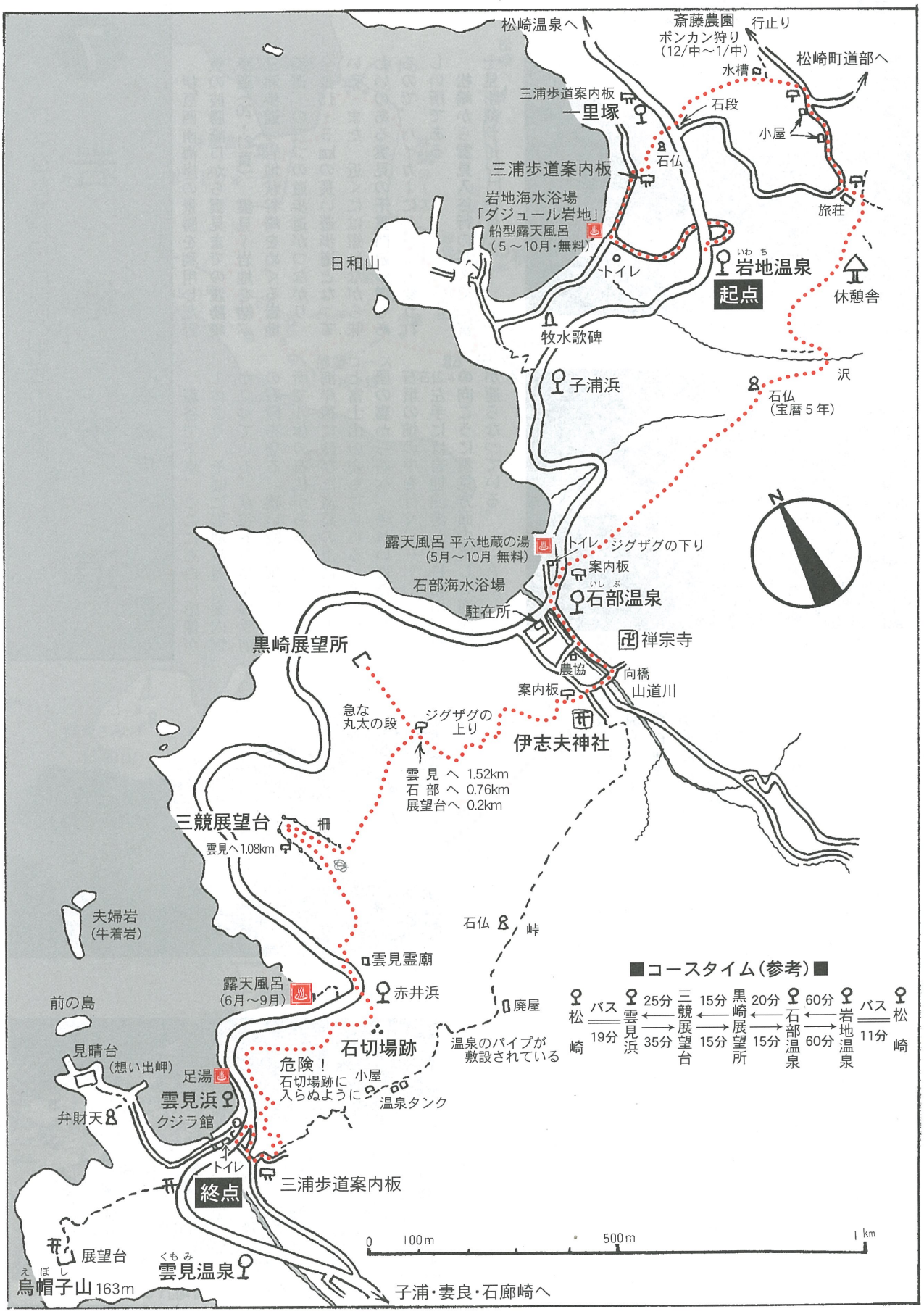
赤井浜への道はアロエが咲く荒れた段々畑の長い急な階段。下り切ると国道に出る。左へ少し行くと石段を上がった所に雲見霊廟。石仏がたくさん置かれている。

赤井浜へ降りると、切りキズや皮膚病によく効くという温泉が湧いていて、釣り人や海水浴客に喜ばれている露天風呂がある。（6～9月）

国道から、また山道へと入ると**石切場跡**。ここは、その昔江戸城修築の際に、間地石を切り出したところ。

雲見湾に浮かぶ夫婦岩や烏帽子山を眺めながら下ると雲見金沢の終点。足に余裕のある人は、163mの烏帽子山へ登ってみるのもいい。浜にある**雲見くじら館（有料 29頁参照）**・**足湯**へも寄って行こう。

▲黒崎展望所より


松崎温泉へ
斎藤農園
ポンカン狩り
(12/中～1/中)
行止り
松崎町道部へ
水槽
石段
小屋
三浦歩道案内板
一里塚
石仏
三浦歩道案内板
岩地海水浴場
「ダジュール岩地」
船型露天風呂
(5～10月・無料)
日和山
トイレ
岩地温泉
起点
旅荘
休憩舎
牧水歌碑
子浦浜
沢
石仏
(宝暦5年)
露天風呂 平六地蔵の湯
(5月～10月 無料)
トイレ
ジグザグの下り
案内板
石部海水浴場
石部温泉
駐在所
禅宗寺
黒崎展望所
農協
向橋
山道川
案内板
急な
丸太の段
ジグザグの
上り
伊志夫神社
雲見へ 1.52km
石部へ 0.76km
展望台へ 0.2km
三競展望台
柵
雲見へ1.08km
夫婦岩
(牛着岩)
石仏
峠
雲見霊廟
露天風呂
(6月～9月)
赤井浜
前の島
廃屋
石切場跡
見晴台
(想い出岬)
足湯
危険！
石切場跡に
入らぬように
小屋
温泉タンク
温泉のパイプが
敷設されている
雲見浜
弁財天
クジラ館
トイレ
終点
三浦歩道案内板
展望台
烏帽子山 163m
雲見温泉
子浦・妻良・石廊崎へ
■コースタイム(参考)■
松崎 バス 19分 雲見浜 25分 35分 三競展望台 15分 15分 黒崎展望所 20分 15分 石部温泉 60分 60分 岩地温泉 バス 11分 松崎
0 100m 500m 1km